

札幌市立大と北大の学生が子ども向けに開いたワークショップが本年度のキッズデザイン賞(キッズデザイン協議会主催)に輝いた。ともに今秋、同様の教室を札幌市内で開く予定で、学生は準備に励んでいる。

全国から503点の応募があり、297点が入賞した。両大とも子どもの感性や創造性を豊かにする点などが評価された。

札幌市立大デザイン学部の学生でつくる「あそび1a b『オヘソ』」は4年連続の受賞。昨冬から今冬にかけ、木育や障害者アートをテーマに道内外で開催した二つのワークショップで入賞した。木枠に張ったネットに、自由に糸を絡ませる遊びや、透明な塩化ビニール板にクレヨンで絵を描く「とうめいおえかき」など、誰もが楽しめる遊びを提案した。

11月にも、札幌市立大など同様のワークショップを開

札市大「とうめいおえかき」／北大「細胞カプセル」

感性育みキッズデザイン賞



⑤「とうめいおえかき」などのワークショップを企画した札幌市立大の学生たち⑥「細胞カプセル」を使った理科工作教室を開く北大生ら

近く札幌で体験教室

く予定だ。デザイン学部4年の黒神信実さんの22は「子どもたちが新しい遊びを考えるきっかけになれば」と話す。

工作研究所でつくってまなぶ「う」と銘打って理科工作教室を開催。大学院生らが玩具ガチャボンの透明ケースを細胞に見立てた「細胞カプセル」を使い、子どもに細胞の仕組みを伝えた。

北大科学技術コミュニケーション教育研究部門(COS)の学生は昨秋、市内

で「チ・カ・ホ農学校」細胞

10月23日午後2時から、札



幌駅前通地下歩行空間北2条広場で「細胞カプセル」作りなどに挑戦する教室を開く。

北大大学院医学研究科修士1年の上林菜月さんの23は「大學生にとっても細胞の理解は難しいけれど、子どもたちがわかるように工夫したい」と話している。先着100人。無料で当日、直接会場へ。

(田口谷優子)